



AUE News

2013年7月1日

第 64 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目次

- 行事予定(7月1-15日)
- トピックス
 - ・環境ミーティング
 - ・国大協・福島大が「ふくしま再生シンポジウム」
 - ・東海・北陸地区国立大学法人等職員採用試験
第一次試験合格者の職場訪問・職場説明会
 - ・東海地区国立大学体育大会柔道競技
 - ・c a n ・ t e n — 加藤克俊個展
 - ・初習外国語科目および教養科目説明会
 - ・宮澤宏枝さんが特許取得で松田学長と歓談
 - お知らせ・報告・投稿
 - ・大学見学に吉良高校、加茂高校、阿久比高校が来学
 - ・学長杯釣り大会
 - ・広報誌「大学案内2014」が完成
 - ・催しもの案内

行事予定(7/1-15)

- 2日(火) 個人情報保護法委員会 (11:00～ 第二会議室)
役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
教務企画委員会 (16:40～ 第二会議室)
学生支援委員会 (16:40～ 第五会議室)
- 5日(金) 附属学校運営委員会 (14:00～ 第三会議室)
- 8日(月) 大学改革推進委員会 (16:40～ 第三会議室)
- 9日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 10日(水) 代議員会、教育研究評議会 (13:00～ 第五会議室)

トピックス

環境ミーティング(6/17)

本学の環境を考える「2013年度第1回環境ミーティング」が6月17日(月)のお昼休みに、第一共通棟自習室Aで開催されました。環境意識が高い学生や教職員・生協職員合わせて26人が参加し、過去最多となりました。三宅明保健環境センター長のあいさつ後、学生、教職員らが「(敷地内)全面禁煙」「ゴミ問題」「省エネルギー」等のテーマに沿って、意見交換を行いました。



全面禁煙については、「相変わらずマナーの悪さが目立つ」が、「近隣住民への迷惑を考えると分煙にした方がいいのでは」という意見がありました。「ゴミ問題」については、分別(処理)等に対する質問、飲み物やラーメンの残り汁の捨て場所への意見、生協が行っている弁当のリサイクル可能容器(ミリミリパック)の回収に関する現状報告などがありました。「省エネルギー」については、トイレのハンドドライヤーの使用休止について意見がありました。また、日頃から自主的な環境活動に取り組んでいる講義室の清掃活動(クリーン作戦)、エコキャンパスづくりプロジェクト、種

プロジェクトなどたくさん話題が共有されました。クリーン作戦は、教職員にも積極的に参加を呼び掛けることになりました。

昼食をとりながら、教職員と学生が、環境に関する話題で「ぞっくばらん」に意見交換ができる有意義な時間を過ごすことができました。(財務部施設課 副課長 鹿嶋伸彦)

国大協・福島大が「ふくしま再生シンポジウム」(6/17,18)

6月17日(月)、福島市において国立大学協会、福島大学主催による「ふくしま再生シンポジウム～震災復興—大学に期待すること～」が開催され、松田正久学長と共に参加しました。なお、大学関係者全体で約160人の参加がありました。

濱田純一国大協会長のあいさつ、入野修福島大学長の「震災復興への取組と大学の役割」と題する福島大学の震災復興にむけての活動報告、内堀政雄福島県副知事の「FUKUSHIMAが大学に期待すること」の報告が行われました。



休憩をはさみ、見上一幸宮城教育大学長をコーディネーターとして、中井勝巳福島大学つくしまふくしま未来支援センター長、三瓶千香子桜の聖母短期大学生涯学習センター長補佐、菅野典雄飯館村長、内藤清吾(株)内藤工業所代表取締役、香川征国大協副会長(徳島大学長)の5人によるパネルディスカッション「地元の声を聞いて大学は何ができるか」が行われ、各パネリストからは、それぞれの立場での取り組みの現状と、各大学に期待することが紹介され、フロアから

の質疑応答も交えて、大学では何ができるかを考える機会となりました。

翌18日(火)には、福島市の東部、宮城県境に位置する伊達市に移動し、同市で行われている放射能除染の取り組みと同市内の仮置き場における空間放射線量の測定現場と回収型高圧水除染作業の視察が行われました。



市内では今もなお、除染作業が行われており、住民の理解を得ながら除去物の収集、運搬の後、市内の仮置き場へ運ばれており、担当職員の説明に参加者から多くの質問等が出されました。

今後も、多くの方々が福島をはじめ被災地を訪れ、自分の目で見たことを周囲に伝えていくことが大事だという声が寄せられていました。(学生支援部長 下川洋司)

東海・北陸地区国立大学法人等職員採用試験第一次試験合格者の職場訪問・職場説明会(6/21, 22)

東海・北陸地区国立大学法人等職員採用試験の第一次試験合格者を対象にした、本学の職場訪問・職場説明会を6月21日(金)、22日(土)の2日間、第一会議室で実施しました。



当日は、鏡山典子人事労務課長のあいさつ、伊原雅人人事労務課人事担当係長の本学概要説明後、個別面談を行いました。

21日は、近年、本学職員に採用された総務系、財務系の若手職員との交流が行われ、出席者から、本学に就職を決めた理由や職場環境についての具体的な質問が出るなど活発な交流がありました。個別面談には、両日とも長い列ができ、最後まで真剣なまなざしで職員の話の聴いていました。

なお、両日の出席者は21日が25人、22日が106人でした。(人事労務課 副課長 丸山祥弘)

東海地区国立大学体育大会柔道競技(6/23)

6月23日(日)、安城市体育館4階柔道場において、東海地区国立大学体育大会柔道競技が本学を当番校に開催されました。



静岡大、三重大、名古屋大、岐阜大、名古屋工業大、豊橋技術科学大、本学の7大学から男女合わせて60人の選手が参加しました。

柔道場内は28度設定のエアコン完備で、開会式では当番校競技部長として柔道部顧問の坂田利弘教授が優勝杯返還の受け取りとあいさつを行いました。試合は、国際柔道連盟試合審判規定に従い、西三河柔道連盟から審判資格を有した13人の先生方に公認審判員をお願いしました。トーナメント戦で、男子団体戦(女子団体は各参加人数に満たないため)、次に女子個人戦と男子個人戦の順序で各抽選により対戦相手を決め、競技が開始されました。各大学の監督や部員からは熱のこもった応援が柔道場内に響いていました。大きなケガ・事故等はなく無事に終了。熱戦の結果、団体男子は名古屋大学が優勝し、残念ながら本学は予選敗退。男子個人戦では本学の川端望生(中等・理科専攻1年)が第3位、そして女子個人戦では藤塚菜里(造形文化コース2年)が第3位と健闘しました。全日程終了後、本学柔道部員の世話係の1人は「大変忙しくて、少し疲れましたが、無事に競技を終えることができ、ほっとしています」と話していました。

(学生支援課 課外教育担当係長 亀山重人)



can・ten—加藤克俊個展(6/23-30)

刈谷駅前商店街の「UNOセレクション Vol.2」として、「can・ten～環～くりかえす動きの木のおもちゃ作品展—加藤克俊個展」が6月23日(日)～30日(日)、同商店街のギャラリー「スペースAqua」で開催されました。



加藤克俊さんは、本学大学院を2008年に修了、2009年から本学非常勤講師、2013年からは豊橋創造大学短期大学部講師として学生の指導にあたりながら、木のおもちゃの制作や地域の子どもの創作活動を続けています。第18回丹波の森ウッドクラフト展グランプリ、CCDOデザインアワード2007など、木工芸で数々の賞を受賞。

同展では、これまでに制作した中から、30点余が展示されました。

グランプリ受賞作品「マキシ」は、円盤の下に突起を付けたシリーズの一つで、円盤を回転させると盤上のハンマーが動いて長さの違うパーツに



当たって、音階の違うコトコトという不思議な音を響かせるユニークなもの。「スパイラルツリー」と題した作品は、本学の樋口一成教授との共同制作。まっすぐに配置された板の上を、木球が落ちていき、下の板ほど大きいので、落ちた時の音が低くなっていくというアイデアで、第20回丹波の森ウッドクラフト展アイデア賞を受賞。そのほかにも、ハンドルを回すと木片がパタパタと回転しながら音を出すもの、ハンドルを回転させると木球が段を上っていくもの。会場を訪れた





人たちが、一つ一つの作品に触れて、楽しんでいました。加藤さんは「父親が大工だったので小さいころから木は身近な素材でしたが、大学に入って本格的な作品を作り、今年で 10 年。その節目にと個展をすることに。動きが面白い立体造形の楽しさを感じてもらえたら」と話していました。

23 日には、子どもを対象にしたワークショップ「木に刺しゅうをしよう」も行われ、定員を超える 16 人が参加。木の板に穴を開け、花模様など思い思いのモチーフを刺しゅうした木札づくりに奮闘しました。



初習外国語科目および教養科目説明会(6/26)

改編された共通科目が本年度入学生から適用されるのに伴い、1 年生後期から開講される初習外国語及び教養科目についての説明会が 6 月 26 日(水)、講堂で行われました。岩崎公弥理事(教育担当)のあいさつから始まり、初習外国語科目について、初習外国語グループの教員からドイツ語、フランス語、中国語、ポルトガル語の授業内容や履修方法について説明がありました。



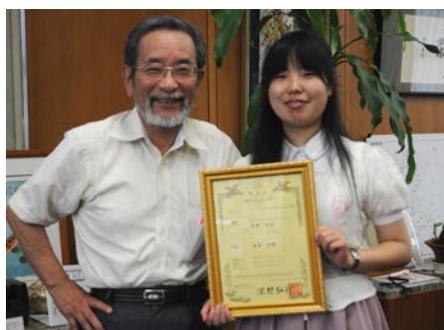
引き続き、教養科目の全体説明会が行われ、清田雄治学長補佐から改編の経緯や理念等を含め説明があり、全体説明会の後に会場を分けて「市民」「多文化」「科学」「ものづくり」の 4 リテラシーの授業内容等についてそれぞれの授業担当教員による個別説明会を行いました。

学生たちは説明会の内容と学務ネットで公開されているシラバス等の授業情報を基に履修希望する科目を今後選択することになります。履修希望の科目登録期限は 7 月 12 日(金)となっており、受講者数に偏りが出た場合は予め用意されている履修選択プログラムで調整する運びとなっています。

(教務課 授業運営係長 眞志田学)

宮澤宏枝さんが特許取得で松田学長と歓談(6/26)

国語専攻 1 年の宮澤宏枝さんが、2008 年に考案・製作した「テレビ消音装置付き電話機」で今年 4 月に特許を取得。それを知った松田正久学長のリクエストで、6 月 26 日(水)に懇談が行われました。



安城市在住の宮澤さんは、小学校 4 年から安城市青少年発明クラブに所属。本学附属岡崎中 2 年の夏休みに、電話の受話器を上げるとテレビの音が自動的に消え、静かな環境で通話ができる装置を発明。装置を思いついたのは、耳の遠い祖父がテレビを見る際に音量を大きくし、電話の通話の妨げになるため、電話がかかる度に慌ててテレビの音を消す祖母の姿を見て、電話に出ると同時にテレビの音が消えるようにすればいいと考えたから。「クラブでは、自分の生活で不便だなと思ったことをメモしておくように

言われていて、これを夏休みの課題として取り組み、発明クラブ指導員の支援も受けて完成させました」と宮澤さん。

電話機本体にテレビのリモコンの基盤を取り付け、さらに受話器を置く部分にテレビの音の出力の有無を切り替えるスイッチを装着。スイッチはリモコンと電子回路で結び、受話器の重みで切り替わるよう設定。受話器を上げると、テレビの音が消え、逆に受話器を置くと、音ができるようにして、当時「あいち少年少女創意くふう展」に出品し、最高賞の文部科学大臣奨励賞に輝きました。クラブ指導員の勧めで、その年の秋に特許を申請、今年 4 月に特許庁が特許として認定

しました。

宮澤さんが松田学長にそのいきさつを説明すると、松田学長から「おめでとう。専攻を知って意外でした。お祖父さん、お祖母さんが喜ばれたでしょ」と声をかけられて、「あるものを組み合わせたので、そんなに難しくなかったんです。(祖父母に)報告したら、喜んでくれたけれど、よく分からないみたいです(笑)」。

卒業後の希望は、中学の国語の教員。「きっかけは附属岡崎中で3年間、国語の研究授業を受けて、話し合いの授業が面白かったから。相手の言っていることをちゃんと受け止めるのには国語が大切。ちゃんとできる先生になりたいくて国語を専攻。まだ3カ月ですが、愛教大は、すごく楽しいです」。オカリナやノートテークのサークル活動、発明クラブでは指導員として子どもたちにアドバイスする立場で活躍するなど学生生活について歓談。松田学長は「ぜひ頑張って、国語の先生になってください」と激励の言葉を贈りました。



お知らせ・報告・投稿

大学見学に吉良高校、加茂高校、阿久比高校が来訪(報告)

本学では、受験生向けに高校からの大学見学を受け付けています。6月後半は3件の見学がありました。

18日(火)には愛知県立吉良高校の3年生41人が訪れ、大学の概要説明を受け、第一共通棟や生協、ガラス工房、附属図書館などを見学しました。生徒から「教員採用試験の合格率は」「学食のメニューは何がおすすめですか」などの質問がありました。

20日(木)は岐阜県立加茂高校の保護者76人が来訪。「子どもを海外留学させたい」という希望を受けて、職員が本学の国際交流の現状などを説明。施設見学では、ガラス工房に関心が集まり、佐々木雅浩准教授による説明を聞き、実演に見入っていました。



24日(月)には愛知県立阿久比高校の保護者45人が訪れました。大学の説明には、同校卒業生で国際文化コース3年の学生が参加して、学生生活を紹介。中国語を選択し、中国や台湾で短期留学した体験や、将来は中国語を生かした職業を希望していることなどを話して、「愛教大では教員を目指す人もいますが、そうでない人もいて、多彩な選択ができます」とアピール。保護者から「発音が難しいといわれる中国語をどのように習得するのか」などの質問には、教員による丁寧な指導がされていることを説明しました。施設見学コースの最後には学食で昼食をとり、キャンパスライフにも触れて、この日の見学は終了しました。



学長杯釣り大会(投稿)

6月30日(日)、三河湾日間賀島近くの海で、第7回学長杯釣り大会が開催され、ギマを釣った数で順位を競った。ギマは、フグ目ギマ科ギマ属の魚で、腹に二本、背に一本の角があり、床に置くと愛嬌のある形で立つことができます。関東以西の汽水域に生息し、三河湾では6月から7月にかけて釣れます。皮は固く、ペンチなどを使って皮をはぎます。味は淡白で、形はカワハギに似ています。



当日は、女性 3 人を含む 12 人が参加、棚岡実さん(大学の契約運転手さん)と彼の友人の船に便乗し、7 時半に出航、30 分ほど走り、知多半島師崎の東、日間賀島の北で釣りを始めました。当日は、うねりが 1m 程度、まずまずの釣り日和。エサは、アカシャエビ、2~3 本の針で底に重



りをつけ釣ります。朝のうちは、魚の食いも良く、中には 2 匹がかかって、引き上げるのにタモを使う人も。釣りに釣れていたギマも、10 時を過ぎるとピタッとあたりが止まり、12 時半で納竿。蜷川の船の係留地に戻り、表彰式。1 位は、井村美久さん(入試課長)の 26 匹、賞品は救命胴衣、2 位は白石薫二さん(理事・副学長)の 25 匹、賞品はリール付き釣竿、女性の一位は 10 匹で藤目光さん(人事労務課)で賞品は同じくリール付き釣竿。上記以外の参加者は、岩崎公弥さん(理事・副学長)、福井豊さん(財務企画部長)、鹿嶋伸彦さん(施設課)、大河内堅さん(同)、中村章二さん(附属学校課)、後藤成美さん(総務課)、安藤栄里子さん(学生支援課)、松田でした。

秋には学長杯ハゼ釣り大会が行われます。釣りをやってみたい方、こぞって参加してください。
(学長 松田正久)

「大学案内 2014」が完成(お知らせ)

本学の受験生向けパンフレット「大学案内 2014」が完成し、配布が始まりました。

大学案内は、入試説明会や大学見学の際に高校生や保護者、高校の教員などに本学を紹介する広報誌。秘書広報課を中心に編集を担当。学生、教職員の協力を得て、昨年 10 月から約 8 カ月をかけて編集作業にあたり、このほど完成し、制作業者から入試課に 2 万 5000 部が納品されました。

A4 サイズ、83 ページ。表紙をはじめモデルはすべて本学学生です。内容は「学長メッセージ」「教育実習インタビュー」「教育課程とカリキュラム」「取得できる免許・資格」「教員養成課程」「現代学芸課程」「大学院紹介」「キャンパスカレンダー」などで構成されています。入試課で配布を開始しましたので、必要な場合は、入試課にお問い合わせください。

入試課 学部入試係 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 2 0 2



催しもの案内

◆美術教育講座の特別授業

ベルギーのガラス美術館 GlazenHuis 学芸員・Jeroen Maes 氏による講演会

「glass museum GlazenHuis での企画展について」

7 月 4 日 (木) 9 : 30 ~ 11 : 30 途中退出自由

美術第二実習室 2 階 201 室 造形文化視聴覚室

同館で企画された展覧会のコンセプト、展示作品を紹介。

問い合わせ：美術教育講座 佐々木雅浩准教授

E-mail:sasaki29@aecc.aichi-edu.ac.jp

◆生協ビアホール

7 月 4 日 (木) 5 日 (金) 17 : 00 ~ 20 : 00

第二福利施設「UP」

料金 800 円 (バイキング形式、ドリンク別料金)

生協学生委員会が主催する夏の恒例イベント。教員採用試験に望む 4 年生への応援企画も。学年や専攻を超えた交流の場としても好評。

予約・問い合わせは生協本部へ。 TEL 0 5 6 6 ・ 3 6 ・ 2 4 0 4

◆全国同時七夕講演会（愛知教育大学 第6回サイエンスカフェ）

7月7日（日）18：00～21：00

自然科学棟5階・地学538教室、屋上・天文台など 雨天時も観望会以外は開催

18：00～19：00 七夕講演会「X線で輝く宇宙」

講師：幅良統 講師（理科教育）

19：00～19：30 カフェタイム

19：30～21：00 夜の天文観望会「七夕星空観望会」天体：土星、二重星ほか

19：30～ 「3D宇宙の旅」上映会

解説：本学学生

問い合わせ：理科教育講座 天文学研究室 Tel 0566・26・2624

天文台ホームページ

<http://www.phyas.aichi-edu.ac.jp/~tenmon/>

◆エコキャンパス事業 図書館『種』プロジェクト講演会

7月10日（水）13：00～14：00

附属図書館2階 アイ♥スペース

題目：「簡単にできる花づくり」 講師：芹澤俊介名誉教授

対象：学生、教職員

花壇づくりや、花の世話・栽培方法を中心にした講演会。

問い合わせ：エコキャンパス事業「図書館『種』プロジェクト」

Tel 0566・26・2683

◆第6回愛教大アカデミックカフェ

「新種発見！ナガバノイシモチソウの不思議～渡邊教授と地域の連携で世界的発見～」

7月16日（火）17：15～19：00

17：15～カフェタイム、17：30～講演、18：30～質疑応答

本部棟3階 第五会議室 入場無料・事前予約不要

講師：渡邊幹男教授（理科教育講座）

演題：「ナガバノイシモチソウの不思議」

絶滅危惧種の食中植物「ナガバノイシモチソウ」のうち、豊明市など東海地方にだけ自生する赤い花を咲かせるタイプが日本固有の新種であることを、渡邊教授の研究グループが発見。学名に「トヨアケ」を冠して「ドラセラ トヨアケンシス」と命名した。世界的な発見について、渡邊教授が分かりやすく解説します。

問い合わせ：秘書広報課 Tel 0566・26・2738

または大学ホームページの案内をご覧ください。

http://www.aichi-edu.ac.jp/files/academiccafe06_130617.pdf

◆キャンパスクリーンデイ 2013

7月17日（水）15：30～16：30 雨天は24日（水）25日（木）26日（金）に延期

本学構内のゴミ・落ち葉の収集、放置自転車の回収作業など

参加者：全学教職員、学生

問い合わせ：施設課 Tel 0566・26・2152

編集後記

総務担当の理事が「構内の点検で図書館に行ったら、自習する学生で机がいっぱいだったよ。教採が近いからね」と。教員採用試験は今年20日。教員志望の4年生にとっては緊張の夏です。キャリア支援の担当職員も「やったことが結果に出る」と断言していましたが、これまで積み重ねた努力の成果を発揮してください。いじめや体罰問題では、世間から教員に厳しい目が向けられていますが、現場の多くの先生から「大変なことはありますが、それでも教員という仕事は面

白い。やりがいがある」と聞きます。あなたの夢の実現を教職員一同、応援しています。ガンバ
レ～！ (K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュース
の提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二